

令和 2 年度

事業計画書

公益財団法人 馬事文化財団

目 次

I	根岸競馬記念公苑における事業	1
1	馬の博物館事業	1
(1)	馬に関する博物資料の展示	1
(2)	馬に関する博物資料の調査、研究	2
(3)	出版事業	2
(4)	馬に関する博物・図書資料の収集、保管	2
(5)	研究交流・外部協力及び研修等の実施	2
2	馬展示事業	3
(1)	馬の展示	3
(2)	馬事イベントの開催と外部協力	3
(3)	厩舎管理等	3
3	馬と馬文化に関する普及活動及び学習支援	3
(1)	講座・講演・ワークショップの開催	4
(2)	団体誘致の推進	4
(3)	行政・学校教育機関や地域自治会等との連携	4
4	馬文化保存事業	4
5	公苑管理業務	4
II	J R A 競馬博物館における事業	4
1	J R A 競馬博物館事業	4
(1)	馬及び競馬に関する展示	4
(2)	馬の学び舎 ミュージアム・ホールでの展開	5
(3)	競馬に関する博物資料の調査、研究	6
(4)	出版事業	6
(5)	競馬に関する博物資料の収集、保管	6
(6)	来館者への案内業務等	6
(7)	馬に関する普及活動及び学習支援	6
(8)	外国人来館者の誘引	6
III	競馬振興会館（Gate J.）における事業	6
1	競馬振興会館事業	6
(1)	馬の文化及び競馬に関する展示と各種情報の発信	6
(2)	イベントの実施	6
(3)	馬の文化及び競馬に関する各種映像の放映	7
IV	広報活動	7
V	J R A 賞馬事文化賞候補作品の情報収集	7

令和2年度 事業計画

令和2年度においては、当財団の定款第4条の目的を達成するため、根岸競馬記念公苑・馬の博物館をはじめとする財団各施設等において効果的な展示、イベント等を行うとともに、それらを広く告知、広報し、学術及び文化の発展に寄与します。

なお、根岸競馬記念公苑・馬の博物館、JRA競馬博物館及び Gate J. 新橋・梅田と主要展覧会について、来苑・来館者見込みを定め、その実現に向けて努力してまいります。

I 根岸競馬記念公苑における事業

1 馬の博物館事業

(1) 馬に関する博物資料の展示

馬文化と競馬文化に関する知識の普及と強化を図るため、これまでに蓄積した馬に関する博物資料を、様々に工夫して展示し、鑑賞に供します。

令和2年度は、春季は特別展を、秋季は企画展を行うほか、年間を通じて多様な内容のテーマ展を実施します。特に当該年は東京オリンピック開催年であることから、馬術競技の認知度の拡大・普及に努めること、世界各国から訪日される外国人の来館を期待できる内容構成に重点を置きます。

また、特別展等に即した各種講座・講演会も企画します。

なお、昨年引き続き展示室内にあるエアタイトケース内の環境（温度・湿度・空気環境等）を、重要文化財等の公開の際に文化庁が要求している適正な水準に改善するための調査等を実施しながら展示を行うこととしており、環境の影響を受けにくい博物資料の展示など必要な配慮を行います。

① 春季特別展

東京オリンピック開催記念「馬（馬具）が由来する種目と馬術競技」（仮称）

1964年（昭和39）以来、56年ぶりに夏季オリンピック・パラリンピックが東京で開催されます。

本展は、馬上運動を起源とする体操競技の2種目（あん馬・跳馬）と、人馬がペアになって出場し、動物とともに行う唯一のオリンピック競技の馬術（総合・馬場・障害の3種目）、近代五種（障害飛越競技）を中心に紹介します。

会場では、1964年の東京オリンピックに使用された貴重な実物資料（選手用制服、あん馬、体操・馬術正式プログラム、絵葉書、記念切手・バッジ等）や写真、映像を展示・上映するだけでなく、一般の方に興味を持っていただけるよう装飾も工夫し、最も関心が高まる五輪直前の春季に開催いたします。

② 秋季企画展

「浮世絵に生きる馬の風景」

欧米人にも人気の高い浮世絵尽くしで会場を華やかに演出します。当財

団所蔵品の中から、特に北斎・広重・英泉・清親らが描いた街道画や風景画を中心に、江戸～明治初期における“馬”が活躍した日本の情景を紹介します。

なお、会期中に全版画の展示替えを行い、再来館への期待と資料維持に努めます。

③ テーマ展

欧米人に人気の高い甲冑などの武具・馬具を集めた「サムライアーマー」、「刀装具に描かれた馬」、「小さな騎士（ナイト）たち」や、オリンピックに関連した「人馬競演 —東京オリンピック馬術競技への誘い」「『優勝の門 2020 馬術編』原画展」、一方「生類憐みの日本史 ～馬から犬まで～」(展覧会名は仮称)など歴史、民俗、美術、馬術といった分野のテーマを設けて展示を行います。

④ 常設展示

来館者の馬への理解が深まるように、収蔵品や体感機器・体験機を活用した効果的な展示を行います。

(2) 馬に関する博物資料の調査、研究

馬の文化について、自然科学（進化・品種等）、人文・社会科学（歴史、考古、民俗、美術工芸、馬術・乗馬、競馬等）の各分野において、広く文献収集・聴取・実地調査を行うとともに、調査結果の分析・研究を行います。

(3) 出版事業

馬の文化についてより一層の理解醸成を図るため、印刷物を刊行し、全国主要博物館、美術館、図書館、大学、JRA各施設及び競馬サークル各団体等に配布します。

① 特別展等については、来館者の多様な関心に応じて、展示内容の理解が深まるように展示内容の紹介を中心とした図録・リーフレットを作製します。

② 馬に関する博物資料の調査、研究その他の活動の成果は『馬の博物館研究紀要』第22号を刊行し発表します。

(4) 馬に関する博物・図書資料の収集、保管

馬に関する博物・図書資料を収集し、その保管、保持に努めます。また、収集した博物・図書資料についてはこれまでの「資料管理システム」を効率的、高精度なシステムに改修し、情報を逐次入力し利便性を向上させた情報管理を図ります。

なお、博物資料の保管にあたっては、文化財保護の基本的観点から、保存環境を整え、将来への継承に備えます。

(5) 研究交流・外部協力及び研修等の実施

① 調査研究活動の成果発表により、広く学術の発展に貢献するとともに、学会・研究プロジェクト等に参加し、研究交流を促進します。

② 全国の博物館・美術館における馬の文化にかかわる展示・出版・映像等の企画に協力し、内容の向上に寄与することを目指します。

③ JRAや競馬サークル各団体のみならず、全国の博物館・美術館や公共機関等の要請に応じ、馬文化及び競馬の歴史等について展示解説・講義等を実施します。

- ④ 日本博物館協会、全国美術館会議、神奈川県博物館協会等の行う会議、研究会、専門部会に参加するとともに、各地の博物館、教育機関と資料の相互活用及び情報交換を行います。
- ⑤ 大学の学芸員課程の依頼に応じ、実習生を受け入れて指導を行うとともに、獣医・動物看護関連学校の研修、見学も積極的に受け入れます。

2 馬展示事業

(1) 馬の展示

身近に接する機会が少なくなっている馬について、博物館事業の一環として、ポニーセンターにて繋養展示します。展示用馬は、多品種の馬を繋養することとし、放牧や騎乗等の他、日常の飼養管理の様子を紹介します。また、貴重な日本在来馬種については、保存活動の一助となるような展示・活用に努めます。

(2) 馬事イベントの開催と外部協力

馬事普及活動の一環として、展示用馬を活用した馬事関連イベントを主催するとともに、広く外部団体等の活動やイベント等に展示用馬を使った協力を行います。

- ① 馬の博物館の入館者を対象とした体験乗馬及び馬車の試乗会等の他、にんじんを馬に与えるイベントを行い、来苑者が実馬にふれあえる機会を定期的に設けます。

また、馬事伝統芸能やアトラクションホースの演技等を中心とした春・秋特別イベントとして、「馬とあそぼうこどもの日」を5月5日(火・祝)に、さらに「馬とのつどい 2020」を11月上旬に開催し、より多くの来苑者に馬の魅力を伝え馬事普及に努めます。

なお、両イベントとも行政や他団体、地元マスコミとの十分な連携により周知等に努め、盛り上げを図ります。

この他、春のさくらウィークや夏休みの期間などに特別イベントを企画し、来苑者増を図ります。

- ② JRA及び競馬サークル各団体のほか、教育機関・公共機関が主催するイベント等において、展示用馬の出張等の協力を行い、馬の魅力を広めるとともに当財団・両博物館等の普及・展示内容やイベントの周知に努めます。
- ③ 展示用馬の管理や運動のほか、馬事関連イベントについて、自発的な協力活動を行う根岸愛馬スポーツ少年団の要請に応じて、安全を確保した上で、適切な指導を行います。

(3) 厩舎管理等

展示用馬の健康管理及び事故防止に万全を期すとともに、厩舎内外の衛生管理並びにお客様への快適な展示環境の提供に努めます。

3 馬と馬文化に関する普及活動及び学習支援

博物館機能と展示用馬を最大限に活用し、一般の来苑者はもちろんのこと、団体での来苑者も積極的に受け入れます。また、展示内容やワークショップ・体験乗馬等の充実を図ることにより、学校教育・課外授業・生涯学習、観光等

幅広い分野のニーズに応え、馬と馬文化に関する多様な体験や学習ができる機会を設けます。さらに、来苑・来館者がリピーター・サポーターとして継続的に、生涯学習が行える拠点となるように努めます。

(1) **講座・講演・ワークショップの開催**

展示に合わせた各分野の講座・講演会のほか、各種のワークショップを年間を通じて開催します。

(2) **団体誘致の推進**

(公財)横浜観光コンベンション・ビューロー(観光誘致担当)等と連携して団体旅行の誘致に努めます。また、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、案内看板や展示解説文の多言語化等を引き続き整備します。

(3) **行政・学校教育機関や地域自治会等との連携**

横浜市及び教育委員会、近隣の小・中学校や地元自治会・町内会等の協力を得て、遠足・社会見学・職場体験やレクリエーション等の機会を定期的に提供してまいります。小・中・高校生向けには、学校教育と合致した学習プログラムを用意し、体験学習・生活学習に供します。また、夏休みには自由研究に適した本物の馬とのふれあい体験と、学芸員の解説を交えた博物館見学をセットにした体験型の学習講座、工作教室等のワークショップなどを実施します。幼児対象企画としては、馬の写生会等、馴染みやすいイベントを行います。小・中・高校生には、年間を通じて土曜日を無料入館日とし、児童・生徒・学生の来館を促進します。

4 **馬文化保存事業**

馬にちなんだ日本の伝統行事や祭事の保存・振興及び日本在来馬8和種の保存を図るための事業を実施します。また、公益社団法人日本馬事協会と連携し、競馬場やイベント会場等で、当財団繋養の野間馬ミカン、北海道和種(道産子)ゆき、与那国馬サンゴを活用した『在来馬とのふれあい&保護チャリティイベント』を継続して実施します。

5 **公苑管理業務**

来苑者の憩いの場として、また、近隣の児童・生徒等の教育や生涯学習の場として、広く利活用されるよう、年間を通じて計画的に種々の草花や樹木を整備し、自然環境の保持に努めるとともに、案内看板や遊具・備品等の適切な改善に努めます。

II **JRA競馬博物館における事業**

1 **JRA競馬博物館事業**

(1) **馬及び競馬に関する展示**

令和元年に引き続き、競馬を文化の面から紹介し、競馬に対する正しい知識と理解を深める場を提供するために、各種展示やイベントを実施します。また、来館者に競馬の魅力を体感してもらえよう、各種の映像放映や体験型機器の整備・運用を効果的に実施します。更に、競馬専門の博物館として名馬たちの足跡や競馬の歴史等に関わる資料の収集・保管を継続します。

展示やイベント実施にあたっては、近年、次世代人材の育成が競馬サークル全体の大きな課題となっていることから、競馬サークルへの就業促進あるいは低年齢層への PR も念頭において取組みます。将来の競馬サークルの担い手となる低年齢層を含んだファミリー層に対する働きかけを積極的に実施するとともに、各種 PR 活動により競馬博物館の認知度向上や新たな競馬ファン獲得を図ります。

① 展示室 3

- ・ 令和元年 11 月 2 日からの継続展示として「ファンが選ぶ思い出の顕彰馬展」及び「ありがとうディープインパクト展」を 2 月中旬まで開催します。
- ・ 2 月から 4 月には「2019 年度 JRA 賞展」を開催します。
- ・ 4 月から 7 月にかけて「東京五輪と馬事公苑展（仮）」を開催し、馬術及び近代五種の解説や過去の歴史を展示します。また 1964 年に続き 2020 年の東京オリンピックの馬術競技の会場となった馬事公苑の歴史についても併せて紹介します。
- ・ 夏季は武蔵野美術大学との共同企画で、子供やファミリーをターゲットとして、馬の魅力を知ってもらうためのワークショップを開催します。
- ・ 秋季特別展として「第 40 回ジャパンカップ記念展」を開催し、ジャパンカップの歴史を振り返るとともにこの 40 年間の日本競馬の国際化についても紹介します（10 月～11 月）。
- ・ 秋季後半には「競馬ポスター展」を開催します。（11 月～令和 3 年 2 月）

② エントランスホール等

下記の展示を実施します。

- ・ 「新人騎手（第 36 期生）紹介展」（3 月～5 月）
- ・ 「第 87 回日本ダービー優勝馬展」（6 月～7 月）
- ・ 「第 40 回ジャパンカップ優勝馬展」（12 月～令和 3 年 2 月）

③ 競馬及び馬に関する常設展示

- ・ 顕彰馬及び顕彰者、馬学や競馬のしくみ、日本と世界の競馬の歴史について資料やパネル説明等にて展示を行います。
- ・ 「ライヴシアター」、「東京競馬場歴史絵巻」などにより競馬や府中の歴史文化に触れていただきます。

④ 移動展示及び他団体主催展示への協力

- ・ JRA 各施設及び競馬サークル各団体等の要請に応じて競馬に関する移動展示に協力します。
- ・ 他の団体等が主催する馬及び馬の文化の普及に資する展示等について協力します。

(2) 馬の学び舎 ミュージアム・ホールでの展開

- ・ 150 インチ中型映像装置で年間を通じて“アニメ馬物語”、“Horse Dreamer”を、また状況に応じて競馬文化あるいは競馬に関わる職業等を紹介するビデオを放映します。

- ・ 競馬サークルへの就業促進に資する事を目的として、令和元年の「ジョッキーへの道」展に続く企画として「馬にかかわるいろいろなおしごと」を年間を通じて開催し、子供を対象として馬にかかわる仕事をアピールして参ります。
 - ・ 「GateJ. トークショー」や「馬学講座」、「馬のお医者さんのお仕事」等、競馬や馬に関わる講義などを開催します。
- (3) **競馬に関する博物資料の調査、研究**
展示に必要な文献収集・聴取・実地調査を行います。
- (4) **出版事業**
馬及び競馬文化についてより一層の理解醸成を図るため、各種印刷物の刊行及び映像の制作を行い、広く配布・放映します。
- (5) **競馬に関する博物資料の収集、保管**
- ・ 競馬に関する国内外の博物資料を調査し、体系的に収集、保管に努めます。
 - ・ 収集した博物資料については、新たに導入予定の「資料管理システム」に情報を逐次入力し、効率的な情報管理を図ります。
- (6) **来館者への案内業務等**
- ・ 来館者に競馬の魅力を体感していただくため、館内に展示物や競馬に関する知識等を習得したインストラクターを配置し、館内案内や体験機器の説明等を行います。なお、体験機器については安全かつ円滑な運用を図るため、適切な点検等を行います。
- (7) **馬に関する普及活動及び学習支援**
競馬開催日及び平日に東京競馬場乗馬センターと連携し、学校教育・課外授業等のニーズに応え、馬及び馬事文化に関する多様な体験や学習ができる機会を設け、来館を促進します。
- (8) **外国人来館者の対応**
東京オリンピック開催に伴い外国人来館者の増加が想定されることから、英語の案内看板の増設などによりインバウンド環境を改善します。

Ⅲ 競馬振興会館（Gate J.）における事業

1 競馬振興会館事業

(1) 馬の文化及び競馬に関する展示と各種情報の発信

年間4回の予定で実施するテーマ展示及び常設展示等を通じて、馬の文化と競馬に関する知識の普及と強化を図ります。

(2) イベントの実施

G I レースを中心に、Gate J. 内スタジオにおいてトークイベントやレース検討会等を開催し、レースに関する多種多様な情報提供のみならず歴史的な背景等についても紹介します。

また、Gate J. 出張イベントとして、競馬場、ウインズ、馬の博物館、J R A 競馬博物館等の施設で、イベントやトークショー、展示等を実施します。なお、日本在来馬等を活用した『在来馬とのふれあい&保護チャリティーイベント』も併せて実施し、馬文化の普及と在来馬保存活動に努めます。

(3) **馬の文化及び競馬に関する各種映像の放映**

J R A や当財団でこれまでに制作した映像を最大限に活用し、それらを Gate J. 大型モニターやグリーンチャンネル等で放映することにより、広く馬の文化に関する知識の普及と競馬の健全な発展及び Gate J. と財団の広報に努めます。

IV 広報活動

馬の博物館と J R A 競馬博物館及び Gate J. の各種情報を告知するため、財団ホームページ、Facebook、twitter、J R A ホームページ及び各種配布物（ポスター・チラシ・パンフレット等）を活用するとともに、ターフビジョン・場内 I T V、グリーンチャンネル等では映像による告知を図ります。

また、行政や近隣の公共機関・交通機関及び他の観光団体や博物館・美術館と連携し、各種案内等の広報を行うとともに、新聞、雑誌、テレビ、ラジオ等、各媒体に積極的な情報提供と適切な媒体展開も行ってまいります。

V J R A 賞馬事文化賞候補作品の情報収集

J R A から業務委託を受け、海外情報も含めた J R A 賞馬事文化賞にかかわる情報の収集等を行います。